高砂市 新たな学校づくり通信
～こどもたちに最適な教育環境を提供するために～

令和8年4月発行
vol. 14

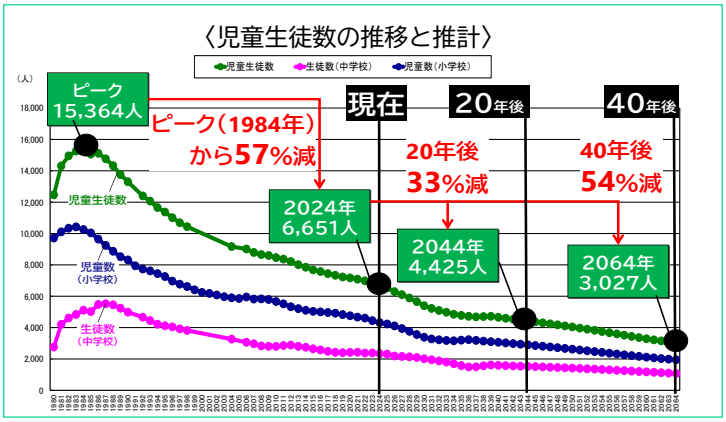
■「高砂市新たな学校づくり推進計画」における方向性を取りまとめました！

高砂市新たな学校づくり推進審議会から提出された中間報告を踏まえ、高砂市が目指すこれからの学校像や今後の検討にあたり重要となる方向性を示した「高砂市新たな学校づくり推進計画」における方向性を取りまとめました。

1 学校を取り巻く現状と課題（一部）

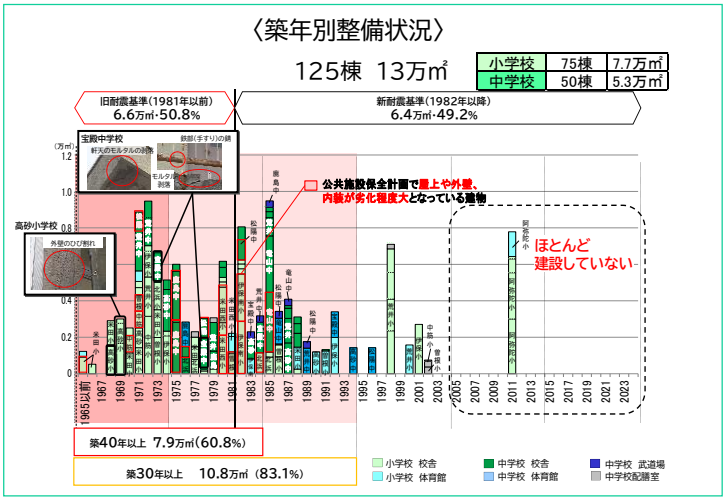
● 児童生徒数の推移と推計

- 令和6（2024）年時点の児童生徒数は6,651人で、ピーク時の昭和59（1984）年の15,364人から過去40年間で57%減少しています。
- 今後は、右肩下がりで減少傾向が続く予測となっており、40年後（2064年）には3,027人と、現在からさらに半減する予測となっています。



● 老朽化状況

学校施設の60.8%が建築後40年を経過しており、多くの学校では校舎の屋上・外壁・内部などに劣化が進行しています。そのため、安全な状態を維持するための整備が順次、進められています。



● ４０年間の維持・更新費

令和4（2022）年3月に改定された高砂市学校施設等個別施設計画では、今後40年間の学校施設の維持・更新費は321億円（約8億円／年）の試算となっています。

● 学校施設・運営面

項　目	現　状
連続性のある一貫教育	ブロック一貫教育推進会議を実施し、各中学校区を1ブロックとして、こども園・小中学校の教員で特色ある取組みを検討しています。
個別最適・協働的な学び、探究的な学びへの対応	• ドリルソフトを活用した児童生徒一人ひとりの理解度に応じた個別最適な学びや、児童生徒が互いに協力しながら学ぶ協働学習を推進しています。 • 児童生徒が主体的に課題を見つけ、調査・協働・発表する探究学習を推進しており、こうした学びの充実に向け、高砂STEAM教育の推進と産官学連携体制の構築を進めています。
特別支援教育	特別支援学級在籍児童生徒数は、平成26（2014）年の80人から令和6（2024）年には245人と、10年間で約3倍になっており、今後もニーズが高まると予想されます。
不登校児童生徒への支援（サポートルーム）	不登校児童生徒数は、小学校3年生から中学2年生まで、学年が上がるごとに増加する傾向があり、中学2年生または3年生が例年最も多くなっています。

2 高砂市が目指す「これからの学校像」 と ４つの方向性

（1）多様な教育活動ができる学習集団の規模の確保

● 適正規模

小学校	12学級から24学級 （1学年あたり2学級から4学級）
中学校	12学級から18学級 （1学年あたり4学級から6学級）

※1学級あたりの児童生徒数は35人とする

● 適正配置

小学校	おおむね4km、60分以内
中学校	おおむね6km、60分以内

※遠距離では、地域の実情を踏まえた負担軽減策を検討する

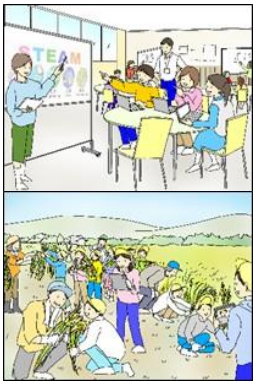
（2）新しい時代の学びに対応した教育環境の整備

● 連続性のある学びの推進

- 小学校及び中学校の再編にあたっては、各々の学校規模を確保した上で、小中一貫教育の推進が図れるよう検討する
- 小学校と中学校を施設分離型で再編検討する場合、施設相互の距離をできるだけ短くなるよう配慮する
- 再編後も児童生徒数が減少し、学校規模の変化が生じた際には、更なる再編を検討する

● 新たな学びへの対応

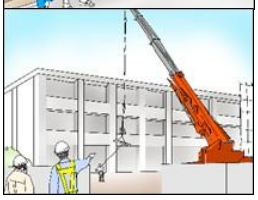
- 個別最適・協働的な学び、探究的な学びを支える学習形態とそれらに必要な設備・空間を確保する
- ICT を効果的に活用した学びの充実に向けた環境を整備する
- 教員数の確保について、引き続き県・国へ要望するとともに、兵庫型学習システムの導入により教職員の専門性を活かした児童生徒の実態に応じた指導に取り組む



（3）安全・安心、快適に過ごすことができる施設の整備

● 学校施設の安全性の確保と機能性の向上

- 学校施設の老朽化対策については、校区の再編時期やコスト等を総合的に勘案し、効果的な整備方法を選択しながら、計画的に進める
- 防犯カメラの設置などによる安全性の確保を検討する
- ユニバーサルデザインによる誰もが使いやすい施設を検討する
- 小学校給食は、施設の老朽化対策と学校給食衛生管理基準への適応を進める
- 老朽化する小学校の給食室更新に際しては、現在実施している自校方式を整備するが、再編の状況によっては給食センター方式の導入も検討する
- 中学校給食は、学校給食センターによる配食方式を継続する
- 小学校の水泳指導は民間プールへの委託化を段階的に進める
- 中学校の水泳指導については、小学校の委託化の状況を踏まえて検討する



● 多様なニーズへの支援

- 特別支援学級等の体制及び環境整備の充実を図る
- サポートルームの環境整備に引き続き取組み、こどもたちの心の安定を図ることのできる学校づくりを進める

● 児童生徒、教職員が快適に過ごせる学校施設

- 多様な学習活動を展開しやすくするため、施設更新時に教室の面積の見直しを検討する
- 職員の業務スペースとして、職場環境の向上を図る
- 教室以外の児童生徒の居場所として、多目的スペースやオープンスペースを検討する
- 荷物（教材等）の置き場所や机の適正化を検討する

（4）学校と地域の連携の充実

● 地域とともにある学校の推進

- 地域の自然、歴史、文化、産業などを「教材」とした学習や、地域で活躍する様々な人々と連携した教育活動を展開し、こどもから大人までが学び合い、学び続けることのできる生涯学習の視点を踏まえた学習環境の充実を図る
- 学校運営協議会等の活動拠点となるスペースの充実を図る
- 令和10（2028）年度を目途に部活動の地域展開を進める
- 部活動の地域展開による学校施設利用のあり方（施設の利用方法、教職員に負担のかからない施設開放のあり方、利用エリアの分離によるセキュリティの確保等）を含めた様々な課題について検討を進める

● 学校環境の向上に資する学校施設の複合化の検討

- 他施設との複合化も検討する
- 学校で対応しきれない部分（施設管理等）を地域に移管したり、逆に地域に必要な機能を学校で提供したりするなど、お互いにメリットを感じられる複合化の組合せについて検討する
- 他施設と複合化を行う場合には、利用エリアや動線を分け、学校の安全管理に留意する

● 避難施設としての防災機能強化

- 施設更新時に、防災拠点として必要な設備を計画的に整備し、災害時に地域住民が安心して避難できる環境を確保する
- 浸水想定区域など地域特性を踏まえ、水害時にも機能する避難所として、安全性と継続性を高める

3 推進計画の策定に向けて

- 今後は、これからの学校像と4つの方向性に基づき、学校施設のあり方、学校再編等の検討を進め、推進計画を策定していきます。
- 令和8年5月頃からは、将来にわたって安全で質の高い教育環境を確保するため、学校施設のあり方について検討し、9月頃からは、学校の再編案について複数のプランを設定し、具体的な検討を進めます。
- これらの検討にあたっては、児童生徒や教職員、市民等からの意見聴取を実施し、いただいた意見を十分に考慮しながら、計画に反映します。
- 令和9年3月に審議会からの答申を受け、その内容を踏まえたうえで、6月にパブリックコメントを実施します。市民等から寄せられた意見を参考に必要な整理・修正を行い、同年9月に『高砂市新たな学校づくり推進計画』を策定します。

【今後の予定】　※意見聴取については、回数を重ねて丁寧に実施します

年度	時期	内容	
令和8年度	5月	第9回高砂市新たな学校づくり推進審議会	
	5～7月	視察	
	7月	第10回高砂市新たな学校づくり推進審議会	学校施設のあり方
	7～8月	意見聴取（学校施設のあり方）	
	9月	第11回高砂市新たな学校づくり推進審議会	
	10月	第12回高砂市新たな学校づくり推進審議会	
	11～12月	意見聴取（再編案）	再編案
	12月	第13回高砂市新たな学校づくり推進審議会	
	1月	第14回高砂市新たな学校づくり推進審議会	
	3月	第15回高砂市新たな学校づくり推進審議会	
		答申	
令和9年度	6月	パブリックコメントの実施	
	9月	『高砂市新たな学校づくり推進計画』策定	

「高砂市新たな学校づくり推進計画」における方向性

高砂市新たな学校づくり推進計画　ホームページ

（発行）高砂市教育委員会 教育総務課　　電話：079-443-9055　E-mail：tact7410@city.takasago.lg.jp